

施策評価表

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（課長等）	30年 9月 30日
2次評価日（部長等）	30年 10月 3日

1 施策の概要

施策名	生活環境対策の推進	コード	7-3
この施策の主な内容（細施策）	(1) 総合的な生活環境保全対策の推進 (2) 野外焼却・不法投棄の防止		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	大気汚染、水質汚濁などの公害防止については、監視体制の強化を図るとともに、野焼きや不法投棄など、日常生活に起因する事柄については、環境への影響を広く知ってもらい防止を図る。		
担当部課	部 市民環境部	課等 市民環境課	作成者 中村良則

● 施策の実施内容 (D0)

2 施策指標の達成状況

* 第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

①	施策指標名	単位	27年度	28年度	29年度			30年度	31年度
			実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
	水質調査河川のBOD最高値	mg/l	0.9	1.2	1以下	0.5以下	-	1以下	
	指標説明								
							-		
	指標説明								
							-		
	指標説明								

3 施策全体にかかる合計コストの推移

* 項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）
直接事業費	2,952	33,623	2,544	3,041
人件費	4,400	4,400	4,400	4,400
合計コスト	7,352	38,023	6,944	7,441

● 施策の評価 (CHECK)

4 施策の現状評価

* 29年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

施策指標である水質調査河川のBOD最高値は、下水道の普及等により、低下傾向となっている。不法投棄件数は、平成22年度に増加した後は横ばいとなっていたが、横河川への不法投棄が連続して行われたこともあり、平成29年度は増加している。生活に関する苦情の内容は、前年度に比べ大きな変動はないが、野焼きに関する苦情に加え、薪ストーブに関する苦情が増えている。

* 岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	下水道の普及
岡谷市の弱み	農地と宅地が混在していることにより、農地での野焼きに対する近隣住民からの苦情が多い。

5 今後の外部環境の変化

* 30年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	特になし
不利に働くもの	特になし

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成31年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	生活環境の状況を把握するため、河川及び地下水の水質調査、自動車騒音の測定を継続して実施し、状況の分析を行う。 野焼きや不法投棄について、環境モニターと連携しながら、環境に与える影響を理解してもらうため、市民への意識啓発を図っていく。 水資源の保全については内部検討を深め、調査の実施、ガイドラインの策定に向けた協議を行っていく。
見直しを行う分野	特になし

●31年度の優先度

* 方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付する。 直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標		直接事業費	人件費	妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位	27年度	27年度			
							28年度	28年度			
							29年度	29年度			
							30年度	30年度			
1		内部	あり	生活環境対策事業	-	-	2,952	4,400	-	継続して実施	B：現状維持
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											